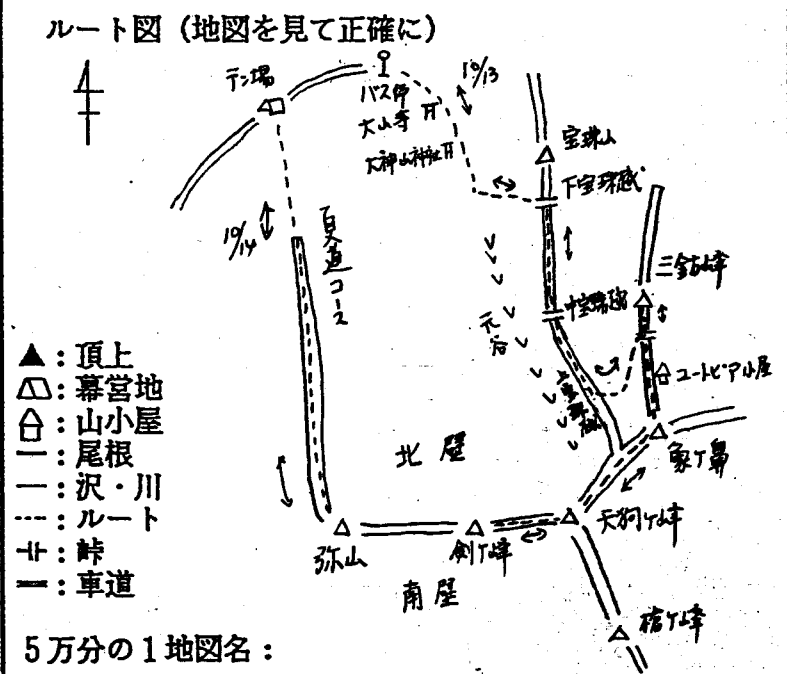


月例会 個人山行 集会報告書		報告者 大矢	報告日 10/24	参加 CL: 伊藤(隆) 大矢 丹羽 塚本
山域 山名	大山	山行日 90年10月12日(金)~ 年 月 日(日)	メンバー	

山行目的: 白刃山の一つである大山のピークに登る。      コースタイム (天候: 天気図記号)

配布先  
 集会: 8  
 山行: 1  
 リーダー  
 原紙: 集  
 会担当者



10/13 ● 9:20 大山寺バス停 荒 10:00 元谷への分岐 10:15 元谷 10:35 下宝珠越 10:55 中宝珠越 11:10 ) -本 11:25 ) 11:55 上宝珠越 12:10 三銘峰分岐 12:15 ) エトピア小屋 12:30 ) 13:20 剣ヶ峰ピーク 13:40 ) 14:15 三銘峰分岐	14:20 三銘峰 14:30 分岐 16:00 大山寺 16:20 バス停 10/14 ◎ 3:30 起床 4:20 出発 真道2 4:55 ) -本 5:05 ) 5:35 弥山ピーク 6:10 ) 7:00 下場
---	--

<報告者所見> 6時過ぎに末子駅の午前で目を覚ます。寝台列車の窓の外はやはり雨である。そのほど強くないが、しとしと意地悪く降り続いている。とたん夕方には雨は止む。大山寺バス停から、少し行った所にある無料休憩所に荷物を置いて、剣ヶ峰に向かう。右段に登り、下山寺と大神山神社の横を通ると、ようやく道は登山道らしくなる。その時元谷を詰める道は、ガレで良くないが、左の宝珠山からの稜線に取り付く。最後は少し急登だが、丹羽さんが苦しそう。この辺から、少しづつ色んている木があるが、お少し紅葉には早い。上宝珠越の山腹をトラバースして、三銘峰-象ヶ鼻の稜線に出るとエトピア小屋はすぐである。そこから剣ヶ峰までは崩壊の激しく、特に左手のバツサリと落ちて、右手の低木の根っこで何とか持ちこたえているような道が続いており、冷汗をかく。たどり着いた剣ヶ峰で「もうあと5年も経たず道がなくなるかも知れないよ」という丹羽

←サダ所見→ さんの言葉に思出す一同うなす。帰りは伊藤さんと2人で三銘峰を往復し、中宝珠越で先行した丹羽さんと塚本さんに追いつく。少しづつガスが晴れてきて、大山北壁下部や、島根半島の雲の合間に見えた。翌日は、伊藤さんと2人で大山頂上である弥山をほとんど走って往復した。こちらは整備された良い道であった。

フリースペース  
 山の紹介・スケッチ・エピソード・その他自由に

角屋側      北壁側